

磯焼け対策からのブルーカーボンへの取り組み

磯焼け

磯焼けとは、海藻や海草を魚やウニが食べてしまい、焼け野原のような状態になった海底の状態を指します。磯焼けによりエサも住みかも無くなる事で、その海から魚も一緒にいなくなってしまう事につながり、「sea desert: 海の砂漠化」とも呼ばれます。

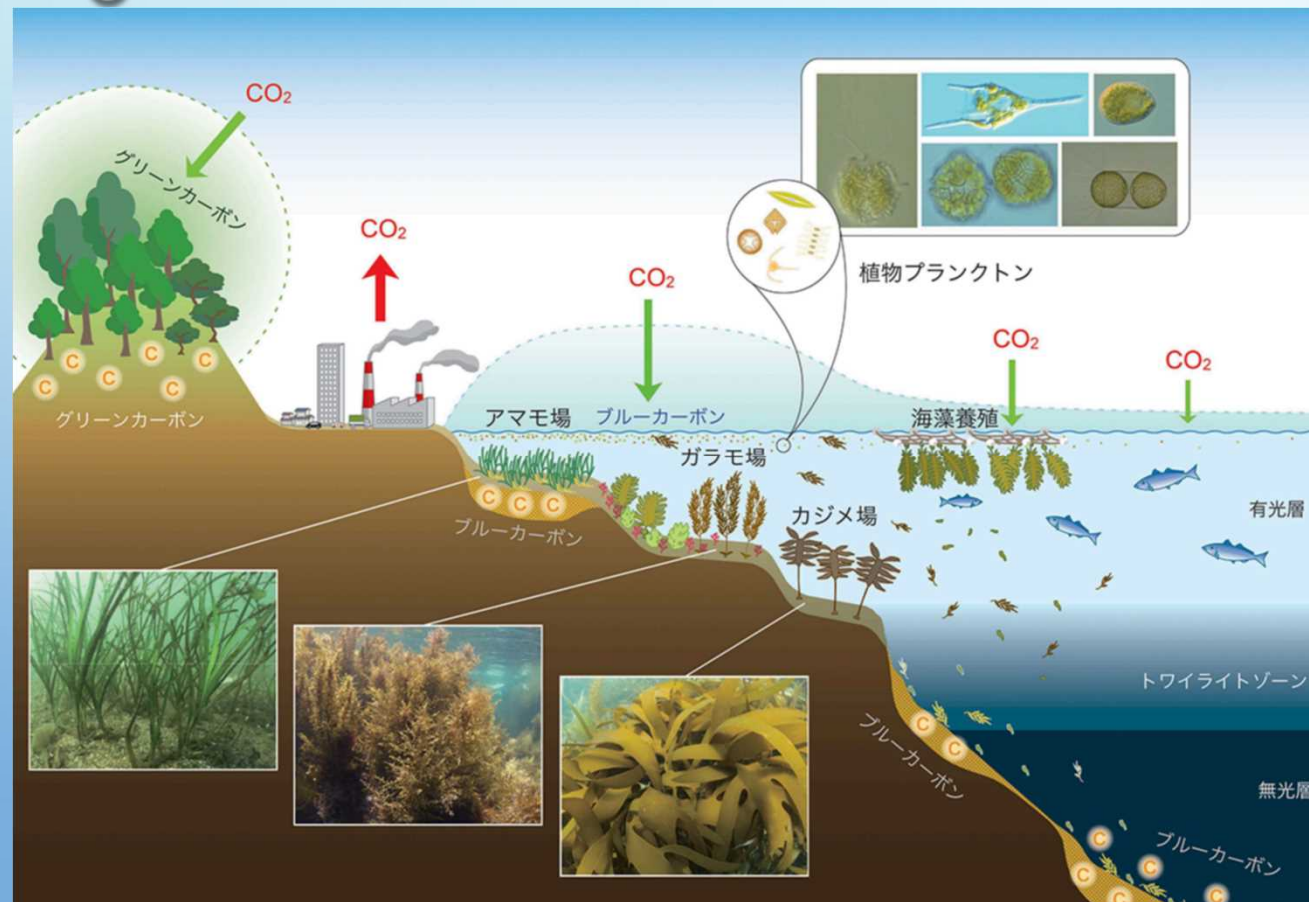


主な原因として

1. 海水温上昇
2. 植食性魚類による食害
3. 沿岸環境の悪化
4. 栄養塩の減少など



ブルーカーボン



植物は光合成により大気中や海中、堆積物中に蓄積した二酸化炭素を吸収し、その体内に炭素を隔離します。

大気中から取り込まれて森林や湿地といった陸上の植物に固定されている炭素のことを『グリーンカーボン』といい、それに対し、海洋生物によって吸収された炭素を『ブルーカーボン』**藻場(海草・海藻)**と呼ぶようになりました。

干潟等の塩性湿地、マングローブ林があげられ、これらは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれています

海の植物は浅海域に生息しています。そのためブルーカーボン生態系が機能する浅海域は**全海洋面積のたった0.8%**と非常に限られた範囲しかありません。

それにも関わらず、浅海域が貯蔵する炭素の量は海洋全体の約40%を占めるとわれています。

沿岸の磯焼け対策は地球温暖化防止に有効である

磯焼け藻場保全対策

昨年6月、9月に竹野地区で磯焼け対策としてウニ除去を漁業者と県の補助を受け行い、本年度も2回実施予定

藻場造成を昨年9月に漁業者と行い、藻場の造成拡大実証としてアラメを付着させ海藻の減少地域に配置



2024年4月8日 日刊水産経済新聞

(第3種郵便物認可)

8

日鉄神鋼建材㈱

ともに豊かな海づくり

漁業者自らの手で藻場礁設置

海洋生態系に隔離・貯留される炭素「ブルーカーボン」を増やすなど、地球環境にやさしい事業を展開する日鉄神鋼建材㈱（東京・千代田区、古川武彦社長）は、のほろ、兵庫・豊岡市の竹野地区で、藻場再生に取り組み地元漁業者と協働した。県は、2023年に「ひょうご豊かな海づくり県民会議」を設立。「豊かで美しいひょうごの海」の実現に向けた取り組みを推進している。

ＪＦ但馬漁協（村瀬 ひとこの水辺魅力再生 地先で地元漁業者による好組合長は、県が藻場 見守り事業に応募。漁 藻場再生の取り組みを開業者の取り組みとして、唯一採択された。



同漁協竹野支所（米田 健作支所長）は、県が藻場の増殖を目指して、藻場水産事務所との協力を得て事業計画を策定。23年9月、豊岡市竹野新港

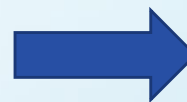
くすしのこ 実現 有馬かな ノイ酢

醸造酢メーカーのタマノイ酢㈱（豊岡市）は、4日、人気漫画原作のテレビアニメ『推しの子』とコラボした粉末寿司酢「すしのこ」を販売すると発表した。1963年の誕生から一度もパッケージを変更してこ

前からすでに試験施設を 実施しており、着実な効果は実証されている。SKSリーディング企業は、小型の持ち運びがしやすく、漁業者でも運搬、試飲、海産物が可能なことで定評がある。すでに全国の沿岸で6000基以上が設置されている。設置当日は、漁業者約10人が地元沿岸で採取したクロメ母苗を藁に取付けたあと、漁協職員と連携し、漁業者が自ら基礎を投入、海水作業で海底に設置した。漁業者らは慣れない作業に戸惑いながらも、前

今後の取り組み

磯焼け対策(ウニ除去)を中心に漁業者と関係省庁や県・豊岡市の協力のもと、水産多面事業での「藻場の保全」への移行を計画中



栄養塩の補填として豊岡市の
下水汚泥肥料の活用の検討

磯焼け対策を行うことで沿岸の環境が保たれて、魚介藻類の減少にも歯止がかかり、漁獲向上につながり、観光資源である海岸の美観の保全にもなる



漁業者だけでなく観光業者との
相互協力での地域活性

磯焼けによって消失された藻場の再生、造成することは、水産生物資源や景観の回復だけでなくブルーカーボンの活用にもつながります



ブルーカーボンクレジット
への参加